



1. クラブ国際奉仕活動に学友会が協力

出雲中央RCとタイ米山学友会がタッグを組み、タイの病院へ医療器具を寄贈しました。

このプロジェクトは第2690地区（岡山県・島根県・鳥取県）と出雲中央RCによる地区世界社会奉仕プロジェクトの一つであり、同クラブがかつて世話をした元米山奨学生、ブサコーン・ホンヨックさんを通じて、タイ米山学友会へ協力を仰いだもの。同学友会はこの話を受け、寄贈先となる医療機関の選定や、現場で今必要とされている機器の把握、販売業者の情報などを調査し、出雲中央RCへ逐次報告。学友会から



の12,378パーツを足して、昨年12月にネーザルハイフロー（高流量で高濃度酸素を投与できる呼吸療法機器）1台を寄贈、ま

た、今年1月にはストレッチャーを1台ずつ2病院へ寄贈しました。現在、オミクロン株が急拡大しているため贈呈式には立ち会えなかったものの、「今回のご支援で、医療設備が充分ではない地域の病院を助けることができた。学友会として世話クラブのお手伝いできたことが何よりも嬉しく、懸け橋の役割を果たせた」と、ワシン・テイシャシャイニラン会長（東京清瀬RC）とブサコーンさんが語ってくれました。



寄贈したネーザルハイフロー（銘板には出雲中央RCとタイ米山学友会の名が刻まれている）

2. よねやま親善大使の活躍

2月5日、第2560地区米山奨学委員会が主催する「第2回米山委員長セミナー」が新潟市内で開かれ、よねやま親善大使のカレン・ジュリア・ウォーターズさん（1992-94/京都南RC）が同地区54クラブの米山奨学委員長に向けてスピーチをしました。今回はオミクロン株の感染拡大を受けてハイブリッド形式となり、会場に集まったガバナー、ガバナー・エレクト、ガバナー・ノミニーを含む約25人は全員抗原検査を受けてから入場するなど、厳戒態勢での開催となりました。久しぶりの活動と



なったカレンさんは米山奨学生時代の感謝から現在の仕事に込める思いなどを語り、聞きながら涙を浮かべる参加者もいました。

現在の第4代よねやま親善大使の3人は、就任時からコロナ禍に見舞われ、ほとんど活動ができていません。このため、任期を1年間延長し、2023年6月末までとすることが決定されました。感染が落ち着きましたら、ぜひよねやま親善大使をお招きください。



Q 招へいの費用はどのくらい？

地区・分区・クラブ周年行事の場合、親善大使の旅費（交通費・宿泊費・基本の食費）は奨学会が負担します。地区大会登録料、晩餐会参加費などは、招へい側でのご負担をお願いします。

Q クラブ卓話へ呼べますか？

できるだけ地区・分区行事への招へいをお願いしていますが、親善大使（大阪・東京在住）の旅費をクラブでご負担いただける場合、招へいが可能です。

Q どこに申し込めばいい？

米山奨学会事務局広報担当までメールまたはお電話でご連絡ください。折り返し、招へい申請書をお送りします。その後、事務局が派遣できる親善大使を調整します。